

# 西小 西小学校だより

教育目標「正しくたくましく」・重点目標「チャレンジ！」

令和7年度  
十日町市立西小学校  
No.4  
R7/5/30 発行  
(文責:校長 山岸繁)

## 「燃えよ西小!とべ高く!」全力で激突! 笑顔で閉幕! 馬場上オリンピック、最高!!

24日(土)は保護者や地域の皆様からのたくさん温かい声援をいただきながら、馬場上オリンピックを実施することができました。ありがとうございました。天候はやや肌寒さを感じたものの、赤組、白組、どちらの子どもたちも熱い応援と全力の競技を見せ、とても気持ちのよい運動会となりました。

前半は赤組がリードしていましたが、白組が徐々に追い上げ、最後の高学年リレーではバトンのペナルティもあり、結果発表まで予想できない展開でした。

結果は白組が競技優勝、赤組が応援優勝となりましたが、結果では表せない感動や笑顔があふれるフィナーレでした。それは、両応援団長の閉会式の様子



### 当面の予定

- 6/4(水)全校朝会、クラブ(4-6年)、内科検診(4-6年)
- 6/5(木)読み聞かせ(3・4年)、修学旅行保護者説明会(6年)
- 6/7(土)PTA3学年行事
- 6/8(日)PTA4学年行事
- 6/9(月)夏の馬場上読書まつり~20日
- 6/10(火)体力テスト期間~20日
- 6/11(水)クラブ(4-6年)
- 6/12(木)読み聞かせ(5年)
- 6/15(日)家読の日
- 6/16(月)耳鼻科検診(1・2・4・6年)
- 6/17(火)クラブ(4-6年)
- 6/18(水)委員会(5・6年)
- 6/19(木)読み聞かせ(6年)
- 6/19(木)・20(金)自然教室(5年:ニューグリーンピア津南)
- 6/21(土)PTA1学年行事(AM)、PTA2学年行事(PM)
- 6/23(月)レベルアップ週間~27日
- 6/25(水)クラブ(4-6年)
- 6/26(木)読み聞かせ(1・2年)
- 6/27(金)眼科検診(全)
- 6/28(土)PTA5学年行事

と言葉に表れていました。そして、この両応援団長の笑顔と言葉を生んだのが、団長を支えた両応援団やペナル担当の子どもたち、当日の競技や応援で頑張った1年生から6年生までの全校の子どもたちなのです。

「片方の組だけでは運動会はできない」「6年生だけでも運動会はできない」という言葉がこれまでに子どもたちから発せられており、「最後はみんなだ」という思いが積み重なってきた成果と言えるでしょう。運動会は結果が全てでなく、それまでの過程が大切であることを改めて感じさせてくれた運動

会であり、子どもたちでした。

また、これまでに保護者をはじめ多くの皆様の温かい励ましや支援があったからこそ、重ねて感謝申し上げます。

### ちょっといい話...



ある保護者から、高田町の旧セブイレブ付近での仕事で「お疲れ様です。お仕事がんばってください」と中学年くらいの子に声を掛けられ、とても嬉しかったという声が届きました。学校も嬉しくなりました。子どもたちにも喜びを伝えました。こういった声が広がると嬉しいですね。

西小のHPもご覧ください

## ～西小「学校日記」～



3年生・音楽「リコーダー」(5/15)

3年生は初めてのリコーダーです。講師をお招きし、その面白さを教わりました。



2年生・生活科「苗を買いに行こう」(5/28)

野菜作りに挑戦中の2年生です。お目当ての野菜の苗は見つかったかな？



4～6年生・クラブ活動(5/28)

子どもたちが楽しみにしているクラブが始まりました。画像は室内遊びクラブです。



5年生・総合学習「田植え」(5/29)

米作りに取り組んでいる5年生。田んぼの泥の感触を味わいながら手植えに挑戦しました。うまく植えられたかな？

## 「聴く」「きく」…？

4月の学校説明会の折に、「お子さんの話を聞いてください」ということをお願いしました。学校だより第3号でも「お子さんの声に耳を傾けていただき…」と記しました。

ネットで「きく」を検索すると「聞く」「聴く」「訊く」の漢字がヒットします。「聞く」は、耳に入ってきた音や言葉を認識するという意味です。「聴く」は、相手の感じていること、伝えたいことを理解しようと耳を傾けることです。「訊く」は、自分の興味・関心から湧き起こった、知りたいことや質問したいこと

を尋ねることです。どの「きく」も大事なのですが、「聴く」「傾聴する」ことを西小職員は大切にしていきます。

5月に入り新年度に慣れてきて様々な訴えが担任の耳に届いています。友達とのトラブル、思うようにいかず募らせてきた不満など、本当に様々です。また、保護者からの連絡で受け取れることもあります。

まず大事にしていることは、「そうなんだ」「あなたはそう思ったんだね」「悲しかったよね」「先生に話してくれてありがとう」など、子どもの気持ちをそっくり受け止めることです。子どもたちの多くは、誰かに

話を聞いてもらうだけで満足することがあります。誰かに自分の気持ちや思いを分かってもらえることが、次に向かっていく力に繋がることが多いのです。

逆に気を付けた方がいいのが、その不満や困りごとに対し、誰が悪いか、原因は〇〇だとか、子どもの訴えをうのみにしたり、先取りして決めつけたりすることです。特に対人トラブルに関する場合、子どもの不満は本人の一方的な見方だったり、勘違いや周りとのすれ違いだったりする場合があります。そもそも小学生なので、全体を俯瞰して平等に物事を見ることがまだ難しいのです。訴えの話の内容が、

実際に起きたことと食い違っていることもたくさんあります。

だから、「そうなんだね。つらかったね」と受け止め、できれば、「〇〇があつたんだね。その後…なんだね」と返すことで、子ども自身が冷静に自分の行動を思い起こすきっかけにもなります。こうして、丁寧に声を聴いたうえで「〇〇さんはどうしたいの？」「どうして欲しいの？」と問いかけます。

本格的に動き出すのは、ここからなのです。子ども自身が納得できるように、まずは「聴く」ことから始めていきます。ご家庭ではいかがでしょうか。